

多自然川づくりとは

「多自然川づくり」とは、

- ・ **河川全体の自然の営み**を視野に入れる。
- ・ **地域の暮らしや歴史・文化との調和**にも配慮する。
- ・ **河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境**及び**多様な河川景観**を保全・創出するために河川管理を行う。

「実施にあたっての主なポイント」は、

- ・ 可能な限り**自然の特性やメカニズムを活用**する。
- ・ **その川の川らしさ**を自然環境、景観、歴史・文化等の観点から把握する。
- ・ その川らしさができる限り保全・創出されるよう努め、**事前・事後調査及び順応的管理を十分に実施**する。

【多自然川づくりについて -国土交通省水管理・国土保全局HPより抜粋-】

小田川合流点付替え事業における多自然川づくり

「小田川合流点付替え事業」により新たに創出される河道において、多自然川づくりを実施するために学識経験者から助言を頂く場として

「小田川柳井原地区川づくり検討協議会」を設置。

協議会 構成委員

専門分野	氏名(敬称略)	所属・役職
昆虫・環境学習	奥島 雄一	倉敷市立自然史博物館 学芸員
河川生態	萱場 祐一	国立研究開発法人土木研究所 自然共生研究センター長
河川利用	内藤 智	柳井原小田川放流対策協議会 委員長 (地域代表)
魚 類	中田 和義	岡山大学大学院 環境生命科学研究科 准教授
植 物	波田 善夫	岡山理科大学 教授
水 産	藤井 義弘	岡山県農林水産総合センター 水産研究所長
河川工学	前野 詩朗	岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授

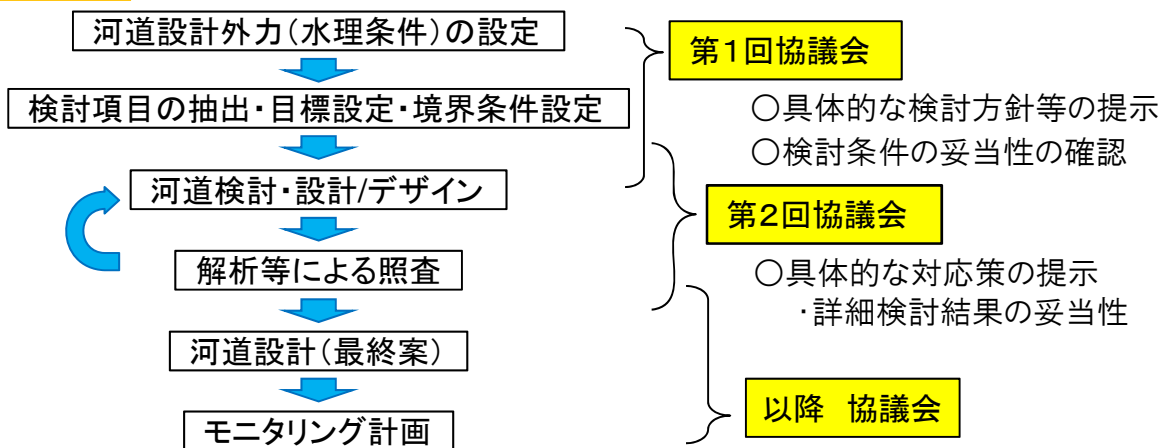
※五十音順

目標と主な検討項目

【目標】 新たに創出する付替河道において、現小田川の環境を延伸し、多様な動植物の生息・生育、繁殖環境、また河川利用を考慮した空間を創出する。

主な検討項目
1. 平水時の流水環境整備(瀬淵、みお筋、ワンドの創出)
2. 高梁川と小田川の環境バランス、連続性の確保
3. アサザの生育環境の保全
4. ホソバイスタデ等の一年生草本の生育適地の整備
5. 在来タナゴ類の生息、繁殖環境の創出
6. 河川利用等の観点から親水性への配慮

検討の流れ



検討の体系

